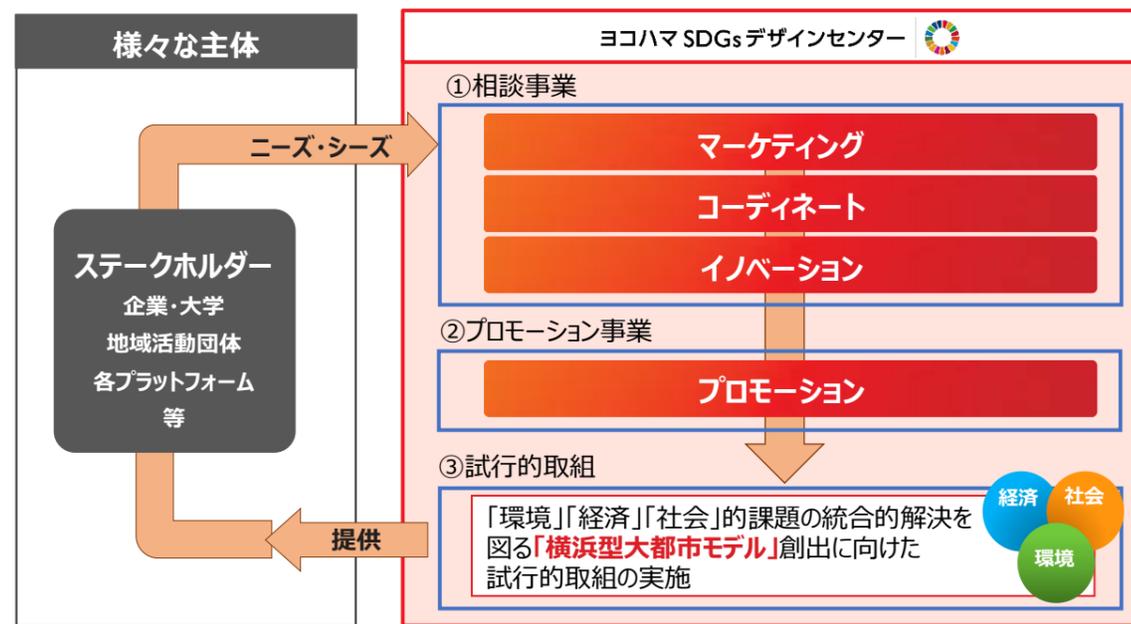


ヨコハマSDGsデザインセンター事業について

- ・ヨコハマSDGsデザインセンター（以下「デザインセンター」）は2019年1月から運営を開始し、①コーディネート・マッチングなどの相談事業、②講演・視察の受け入れやSDGsの普及啓発を行うプロモーション事業、③自らが主体となってSDGsの視点で地域・行政課題等の解決に挑戦する試行的取組を実施（※下図参照）
- ・今後は、会員から寄せられた相談や、試行的取組で得られた知見・成果を活かし、国等の動きに合わせ、SDGsに取組む企業・団体・教育機関等の多様な主体の活動を総合的に支援するための機能強化を図り、SDGs未来都市・横浜の実現を目指す。



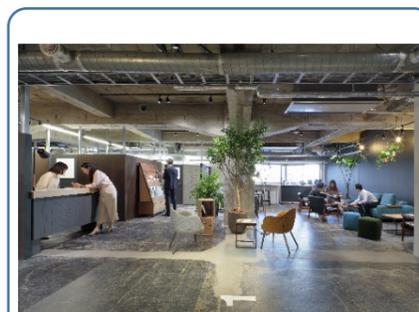
1 現在の取組状況

- (1) デザインセンター会員【約900名】
SDGsに関心を持つ市民・事業者を対象に会員を募集
- (2) デザインセンターへの相談【約200件】
デザインセンター、会員活動、試行的取組等に関する相談窓口としてコーディネーターを配置
- (3) フォーラム開催【計2回】
デザインセンターの取組を広く発信し、様々なステークホルダーの連携を促す場を創出

第1回 (3/13) : 約300名参加
第2回 (8/2) : 約400名参加

 ※日本経済新聞社と共催
- (4) 講演・視察等【約70件】
- (5) 企業等と連携した試行的取組【13事業】※裏面参照

(※11月末時点)



コーディネート相談窓口
 G Innovation Hub Yokohama内
 (横浜市中区尾上町)

2 今後の展開

市内事業者、金融機関、教育関係者等からデザインセンターの相談窓口寄せられている、ご意見・要望等を踏まえ、次の点について新たに検討を開始

(1) SDGsの推進に資する取組に対し金融支援を促す仕組み

- ・市内事業者等がSDGsを活用した新たなビジネスを展開する際に、最大の課題である資金調達について、デザインセンターが金融機関と連携して支援ができる体制を整備
- ・国（内閣府）がSDGsを原動力とした地方創生に取り組む企業・事業の拡大を目指し検討を進めている「地方創生SDGs金融」と連動し、既存の投融资制度や助成制度をはじめ、様々な金融支援制度を活用する、横浜ならではのモデルを構築

★金融機関等を対象としたヒアリング調査を実施中（5社が参加）

●検討スケジュール（想定）



(2) 様々な課題解決に取り組む人材育成支援の仕組み

- ・市内小中高等学校の教員等からの要望に応え、ESDなどに積極的に取り組んでいる教員、大学教授等の教育関係者で構成する検討組織を設置
- ・SDGsで次世代の人材育成支援に取り組む仕組みづくりを、デザインセンターと教育機関等の連携による実施を検討



海と教室をライブ映像でつなぐ海洋教育プログラム「海中教室」(6/27実施)

★今後の本格検討に向けた教育機関等の関係者による意見交換会を開催（3回程度を想定）

※裏面あり

○企業等と連携した試行的取組（パイロットプロジェクト）【13事業】

環境

①ヨコハマ脱プラスチックサプライチェーンプロジェクト

業界の垣根を超え、競合他社が手を取り、関係者が集まり、意見交換等を通じ、脱プラスチックの製造・利用・回収のサプライチェーン構築を目指す。

【25団体 45名参加】



②ヨコハマ・ウッドストロー・プロジェクト



道志村の間伐材を原料とし、障害者の方々が製作する横浜産の木のストロー「SDGsストロー・ヨコハマ」の普及拡大させることで、脱炭素化や海洋プラスチックごみ対策など、多くの皆様にSDGsを実感・体感していただき、具体的行動に繋げる。

【1月より市内ホテル等にて販売予定】



③SDGsライフデザインプロジェクト『SDGsハウス』



SDGs17ゴールに貢献する住まいや暮らし方を、木造のモデルハウスを舞台に、環境配慮型の家具や生活用品などを使って来場者にSDGsの行動実践を促進

【8/2～展示中、延べ200人が来場】



④資源循環型エコサイクル実現に向けた取組



食品ロス等の廃棄物の有効活用と、当該取組による地域コミュニティの活性化等によって、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る。

検討中



⑤海と教室をライブ映像でつなぐ海洋教育プログラム“海中教室”



市内小学校の教室と海をライブ映像でつなぐ授業を通じ、子どもたちが身近な海の環境や海洋プラスチックごみ問題等について学び・考える場を提供

【6/27実施。4、5年生約100名が参加】



経済

⑥ヨコハマSDGs体感月間

市内のビジネス・アート・エンターテインメントなどあらゆるジャンルの様々なイベントを通じ、学びながら、楽しみながらSDGsを体感できるキャンペーンを展開

【7～8月に8つのイベントを開催】



⑦バイオ燃料地産地消プロジェクト



CO₂を吸収して成長する微細藻類と市内飲食店などの廃食油を原料としてバイオ燃料を製造。様々な場面で利用拡大を図り、バイオ燃料の地産地消を目指す。

【8、10月に市内イベントで活用、来場者へのPRを実施】



経済

⑧市内事業者を対象としたイノベーションマッチングプロジェクト



市内事業者がSDGsをビジネスで活用出来るよう金融機関が支援。市内事業者によるイノベーション創出を目指す。

【8/20に金融機関の行員・職員向けSDGs夜間勉強会を開催（約200人参加）】



⑨ヨコハマSDGsアイデア博

デザインセンター会員から募集したSDGs達成に向けたアイデアやアクション（提案）を広く発信し、イノベーション創出を目指す。

【8/2実施。会員の6社・団体の取組を支援】



社会

⑩快適な移動手段の充実PJ～オンデマンドバス実証実験～



旭区若葉台地区にオンデマンドバスを導入。子育て世代・高齢者などが移動しやすい快適なモビリティ環境の形成を図る。

【7～8月に第2回実証実験を実施。延851名が利用】



⑪ショートタイムテレワーク実証実験



磯子区汐見台地区でICTを活用した短時間勤務を職住近接で実現。新しい働き方「ショートタイムテレワーク」を提案。

【3月～8月の実証期間中に6名を雇用】



⑫環境絵日記こどもサミット



環境絵日記を通じて全国から集まった小学生たちが、自分たちの描く未来を語り、大人との意見交流会等を通じて、こどもたちから未来へ向けたメッセージを発信

【8/2実施。全国8都市からこどもたちが参加。約130名が来場】



⑬SDGs体感住宅地開発プロジェクト

建築局が検討を進める緑区十日市場センター地区、22街区をSDGsの17ゴールをテーマに多くの事業者参画を得て、開発事業者と共に推進

検討中

